

景色通信 Vol.47

『鉄人の立つまち』

車窓から偶然みつけたその物体は、何だろう。JR 新長田駅前の広場で目に飛び込んでくる大きな影。確かめずにはいられなくなって途中下車した。18メートルの巨体に近づくとつれて、心は少年時代へと向かう。あの「鉄人28号」の全体像が、ショッピングセンターとマンション群のあいだに現れる。

1995年の震災からの復興シンボルとして、昭和30年代の懐かしのヒーローは、現代に原寸大で蘇った。作者の地元である神戸の NPO 法人プロジェクトが、安心や希望と未来を想う市民の気持ちで、モニュメントとして復活させたのだ。夜の街にライトアップされて浮かび上がる鉄人も、さぞ勇ましいのであろう。大地震という自然災害だけでなく想定外の事故であっても、きっと正太郎少年と鉄人がみんなの街のために、被害を最小限に食い止めてくれる、そう願わずにはいられない今日この頃である。そして経済的波及効果は、見物客による現地での買い物や飲食への消費が、大きく向上したということを地元の大学研究会が報告している。ご当地ヒーローが街全体に活気を呼んで欲しい。これから未来へはばたいてゆく子供たちの夢をかなえるためにも、立ち上がれ鉄人！

(加藤進久)



その存在は街の人にも訪れる人にも頼もしい。



街路灯もこのとおり！鉄人の姿はそこかしこに。



それは鋼鉄製でアニメの世界そのままの18m。



自動販売機にも鉄人プロジェクトの文字が！